

農業短期大学校 研修部だより

2026年
9月発行



研修部では、農業の担い手育成と
技術向上を目的にさまざまな研修を行っています。
今号では、今年度の研修の様子をご紹介します



就農研修



農産加工研修



農業機械研修

p. 1 就農研修
p. 4 農産加工研修
p. 7 農業機械研修
p.10 新施設紹介

TEL 0248-42-4114
FAX 0248-44-4553
E-mail
noutan.kensyuu@pref.fukushima.lg.jp



活動報告

就農研修

就農基礎コース

～福島県内で農業を始めたいなら、まずはこれを受講しましょう～

就農基礎コースとは、将来、就農を考えている人向けの研修です。

露地野菜の栽培体験を通して基礎的な栽培知識や技術の習得を目的としています。また講義では、農業を経営するとはどういうことか、どんなことを考える必要があるのかを全5回かけて学びます。アグリカレッジ福島研修部では春コース（5月12日～7月31日）はスイートコーンやエダマメ、秋コース（9月5日～11月21日）はハウレンソウやハクサイのは種（定植）～収穫の体験をしていただきます。



スイートコーンの定植



農作業安全



講義：病害虫防除および農薬適正使用について

就農専門コース

～水田、野菜、果樹、花き、畜産、有機農業ほか
7科目の中から選択し、より専門的に勉強します～

就農専門コースとは、県内の新規就農者又はこれから県内への新規就農を目指す方が、農業で生計を立てるために必要な栽培技術等の専門知識の習得を目指す研修です。

アグリカレッジ福島では、今年度の研修期間は5月15日～8月27日で、各選択科目の他、必修科目（農作業安全、開業・農地・税務等の基礎知識）を受講します。

令和9年度の日程及び内容は、今後当校HPにて公開予定です。改めて学び直したい方も含め、皆様からのお問い合わせや応募を幅広くお待ちしております。



水田



野菜



果樹



花き

長期就農研修

～アグリカレッジ福島で就農の夢を実現しよう！～

長期就農研修とは、県内で農業を始めたい方が円滑に就農できるよう、約１年間かけて、栽培技術及び経営管理を研修生が主体的に学ぶ研修です。当校の最大の魅力は、野菜・花を研修する場合は、本校のハウス等を活用し自分が好きな品目を、自由に栽培管理できます。

研修生は実際に手を動かし、多くの試行錯誤を重ねることで、「自ら考える力」や「改善する力」を養えます。

今年度のアグリカレッジ福島の長期就農研修は３名で、４月から研修を開始しています。研修生からは逆算して動くことの大切や病害虫防除のタイミングの難しさなど、多くの気づきや改善案が早くも報告され、研修生自らが計画的に実践する本研修の効果を確認できました。また、学生の授業を一部聴講することもできるため、理論と実践が結びつきやすいとの感想もいただいております。

令和９年度長期就農研修生の募集期間は令和８年１２月１日～令和９年１月１９日の予定です。なお、施設等の見学も随時対応しておりますので、まずはお気軽にお問い合わせください。



開講式：校長あいさつ



本校ハウスを活用したトマト栽培



活動報告

農産加工研修

夢に向かって！農産加工を始めよう！！

～農産加工研修基礎コース～

5月12日から4回連続で開催した県産農産物を利用して農産加工に取り組んでいる方、これから取り組もうとする方を対象に、農産加工の基礎を学ぶコース。県内各地から受講生が集まりました。

第1回は食品衛生・食品表示・栄養表示に関する講義、第2回は賞味期限の延長と殺菌についての講義とpHの調整と袋詰め真空調理の演習、第3回は『加工は科学！』食品の加工の講義と瓶詰め加工の演習、第4回は就農と加工実践5年目の先輩と一緒に演習とランチミーティング、6次化支援事業の紹介と盛り沢山の内容でした。

今年度の基礎コースは、講義の内容を実践する演習を盛り込み、受講生の理解度を探りながらドキドキの演習でした。受講生の皆さんから「盛り沢山で、すぐ実践に使えるよう」

「加工は科学！なぜそうなるのか要因を考えることが重要で、それが理解できれば商品説明もできる！」「先輩実践者や皆さんとのランチミーティングでの情報交換が為になった」などの感想がありました。アンケートでは、「ここをもっと知りたかった」という指摘もありました。これを受けて、10月から開催する秋コースに反映していきたいと思います。



瓶詰めの演習



先輩実践者の演習

常温流通できる漬物の技術を伝承する ～漬物加工現地研修～

平成30年に食品衛生法が改正され、漬物の加工には製造許可が必要になりました。これに伴い、県内でも施設の整備が困難であることや高齢を理由に漬物の加工を継続される方が少なくなりました。一方で、ふるさとの味を継承しようとする動きも見られています。そこで、5月19日、漬物加工を約半世紀にわたり取り組み、県内で唯一、常温流通を可能とした先駆的な加工者からその技術を学び、技術の継承つなげることを目的に、二本松市にある『智恵子の里農産加工組合』において現地研修を開催しました。

現地研修は、定員10名の募集のところ16名の受講生が参加され、組合の安田氏と遊佐氏から塩蔵や本漬けの方法、加熱殺菌工程の実演など説明と演習を交えつつ研修が行われました。受講生からは、「規模感が大きい」「塩蔵、特に水分活性をいかに下げるかがコツだと理解できた」「漬物の種類によって加熱殺菌温度が異なることを知った」などの感想がありました。現在は、水分活性やpH値など測定器を使用することで、その値を知ることができます。先人の知恵（高度な加工技術）による塩蔵方法は、常温流通を可能とする水分活性値を確保し、さらに本漬けでの調味はpH値も安全性を担保する値となるよう配合されていました。改めて、測定し、その技術の高さに感心しました。



袋詰め演習



安田組合長からのお話を伺う
受講生の皆さん

米粉の焼き菓子～県産米粉（笑みたわわ）を使用して～ 適切な品質保持資材の選び方

6月25日、県産笑みたわわ米粉（田中製粉：郡山市）を使用した米粉の焼き菓子研修を開催しました。近年、グルテンフリーが注目されています。福島県においても、米粉用品種である笑みたわわが栽培され、米粉として流通しています！これを使わないでどうする？ということで、笑みたわわを使用して、シュークリーム、フォンダンショコラ、ガレットブルドンヌ、マフィンの加工を行いました。午前中の2時間で4種類を仕上げるのは、米粉ならではの！！「先生！シュークリーム。すごく美味しいです！」の感想に「特定の品種の米粉でなく、笑みたわわでもできるんですよ！」とそれをお伝えしたかった研修でした。午後からは、アイリス・ファインプロダクツ株式会社の担当者を講師に招き、品質保持資材について研修を行いました。米粉の活用では、県産笑みたわわ米粉について理解が進んだものと思われます。ちょっとしたコツがわかると米粉の課題である「硬い、餅になる」などを抑制することができます。今後、受講生の皆さんの活用の幅が広がることを期待しています！

アンケートにも、「なぜ、その規格のものを選定したのか、なぜその商品なのか。説明ができるようになったと思う。」とありました。メーカーさんから直接お話を聞く機会を作ること、それが大切だと感じた研修でした。



シュークリーム



ガレットブルドンヌ



品質保持資材の選び方の講義



美味しくできました！



活動報告

農業機械研修

大型特殊免許・けん引免許取得支援コース ～けん引操作（農耕車限定）研修～

アグリカレッジ福島の敷地内にある運転練習コースで、農耕車限定のけん引免許取得を目指している認定農業者等を対象に、短大職員が指導しました。本研修では、トラクタにトレーラーを装着しS字走行・車庫入れの練習、安全確認等の練習を行いました。加えて、受験会場である福島県運転免許センターの3つの検定コースの説明等安全知識を学びました。研修初日は慣れないトレーラーの挙動に苦戦している様子が見受けられましたが、何回も練習を重ねていくにつれてみなさん目に見えて上達されていました。受講者の方からは、「丁寧な説明でわかりやすく、何回も練習できるのがよかった」といった声が寄せられています。



S字走行の練習



車庫入れの練習

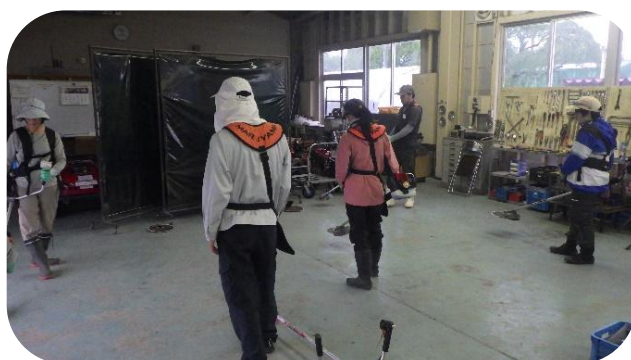
技術基礎コース ～初めての刈払機～

アグリカレッジ福島の敷地内にて、始めて刈払機を使用する認定農業者等を対象に実施しました。本研修では、農作業事故を未然に防ぐための基本的な安全知識を学びながら、刈払機の基本的な取扱い方法、点検整備の基礎を習得します。

農作業の事故事例やその対策を学び、その後実際に点検整備を行い、保護具の装着や正しい刈取姿勢を学びます。受講者の方からは、「学んだことを生かして家でも刈払機を使いたい」といった声が寄せられています。



刈払機の点検整備



刈払機の安全な使用方法

現地支援研修 ～あなたの街で学ぶ農作業安全～

農作業は身近な仕事である一方、毎年多くの事故が発生しています。今回の現地支援研修では農作業事故の実態や事故事例を紹介するとともに、刈払機の点検・整備方法や安全な使用方法について実演を交えながら説明しました。また、近年の猛暑に伴い増加している熱中症の対策についてもお話しし、安全に作業を行うためのポイントを確認しました。安全保護具を紹介した際には、「こんなものがあるんだ」「これなら使ってみたい」といった声も聞かれ、農作業安全への関心の高さが感じられました。

安全対策は「知っている」だけでは十分ではなく、「実践する」ことが何より大切です。作業中に感じたヒヤリ・ハットを仲間と共有し、基本を守って作業することが事故防止につながります。

現地支援研修は、市町村や農業者団体などからのご依頼に応じて、地域へ直接伺い実施しています。年間を通して随時受け付けており、農作業安全や刈払機・トラクターの安全な取扱いなどの研修を行っています。講習会の開催を検討されている方は、ご相談ください。



講義：農作業安全



刈払機の点検・整備

今年度から供用開始した
「スマート農業トレーニングフィールド」を紹介します。



スマート農業トレーニングフィールド全景

本施設は、ドローンや自動運転トラクタなど、スマート農業機械の操作を学べる実習施設です。

広さは2,167平方メートルで、四方をネットで囲むことで、ドローンを用いた操作訓練や液体散布訓練などを自由に行うことができます。

本施設を活用し、ドローンやI o T、I c Tなどのスマート農業技術の導入を積極的に推進するとともに、これらの技術を活用できる農業者を一人でも多く養成していきたいと考えております。

また、本施設は本校学生や研修の受講生以外にも、地域の農業者等の方々にも広く活用いただくことが可能となっています。スマート農業の技術習得等のために本施設の使用を希望する場合は、本校研修部（電話0248-42-4114）までお問い合わせください。